

# 針對犬隻難治性疾患 PINFENON S(碧容健含有)的有效性

指導

日本獸醫生命科學大學 獸醫放射線學教室

藤田道郎

發表

日本SCARECROW株式會社

大川博

# PINFENON S主要成分



碧容健Pycnogenol(法國海岸松樹皮萃取物)  
檸檬酸發酵抽出芝麻



碧容健 Pycnogenol 萃取自生長在法國波爾多西南部地方  
平均樹齡20-25年的法國海岸松樹

法國海岸松樹的樹皮和其他種類的松樹相比  
非常的厚, 含有40種以上可以擊退活性氧的  
「類黃酮(Flaronoid)」

# 主要作用

抗炎症作用

血管擴張作用

血小板凝集抑制

週邊血管阻力低下作用

免疫調整作用

結締組織補強作用

維他命C生理作用的增強作用

自由基清除劑作用

應用在反轉錄病毒感染老鼠身上

可增強自然殺手細胞

In vitro環境下有活化巨噬細胞的作用



間接抗病毒作用



在人體醫學上已應用於糖尿病性網膜症、白內障  
子宮內膜症·婦女病等的替代醫療

# 碧容健的安全性

---

- 低急性毒性
- 非慢性毒性
- 非皮膚毒性
- 不影響生殖能力
- 非致畸胎性
- 非可突變性

碧容健是遵照製藥標準所製成的產品

# ピクノジェノール®の松の栽培地



# 檢討1

## 全血血小板凝集能檢測儀器

WBA-Carna



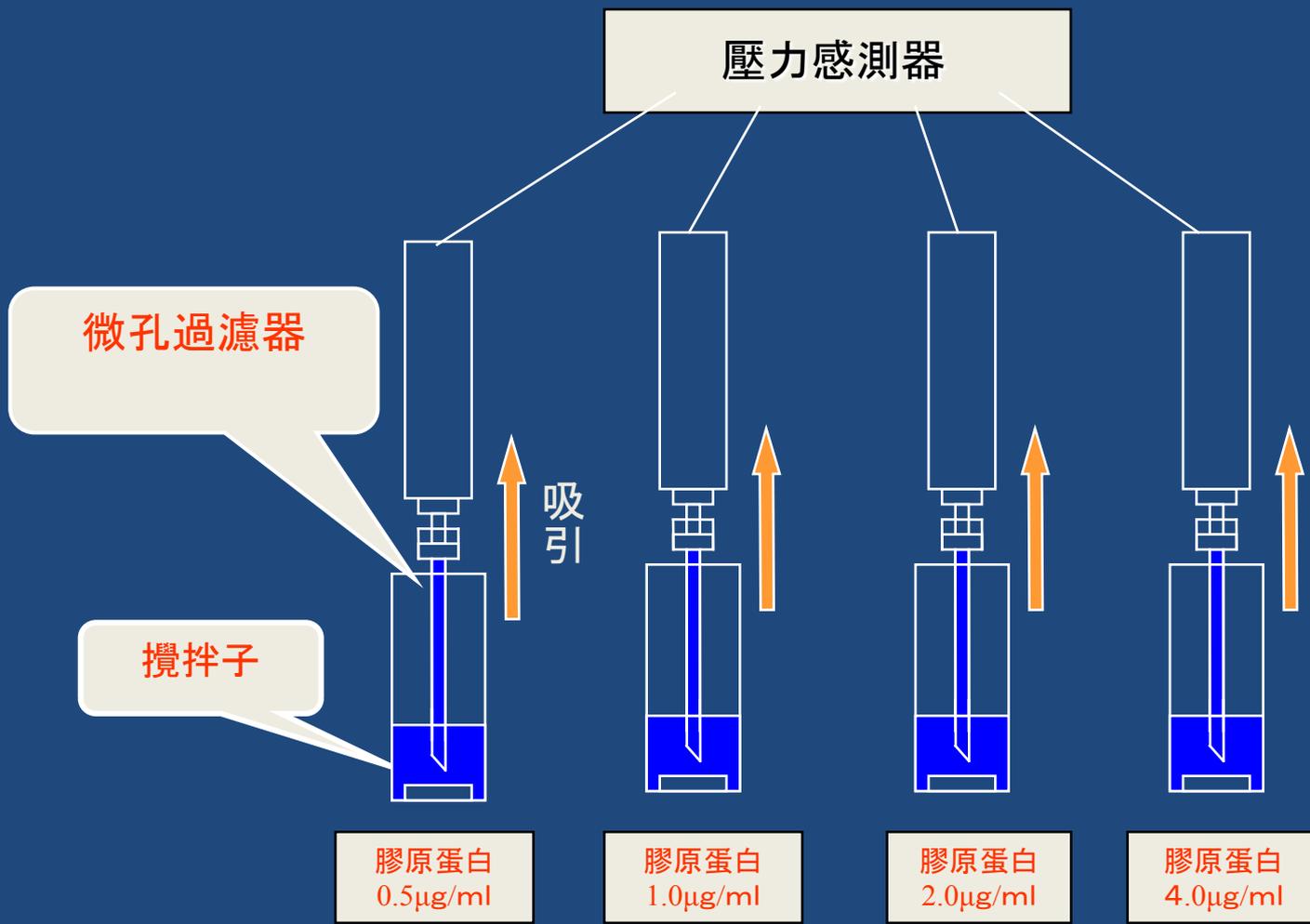
此儀器並非測量血小板的數量，而是檢測血小板的功能，測定其凝血能力



〈儀器檢測時的樣子〉

# 血小板凝聚功能檢測原理

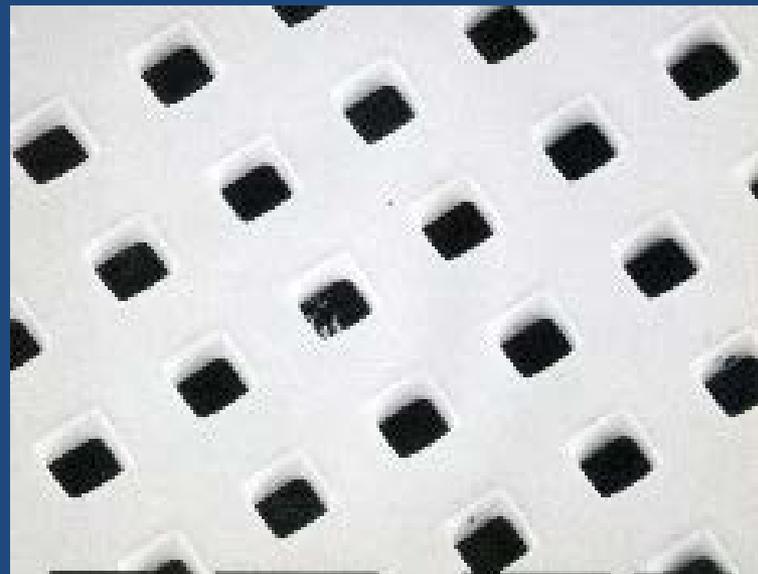
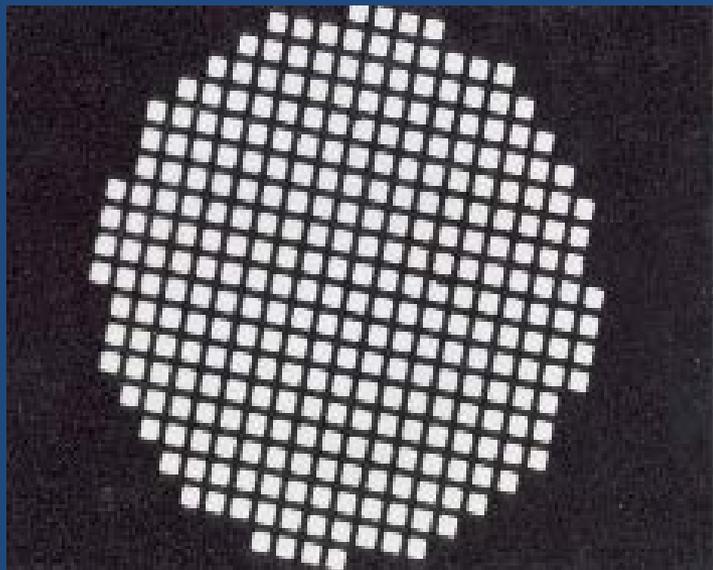
(4管同時進行吸引檢測)



檢體200 $\mu$ l  $\times$  4管

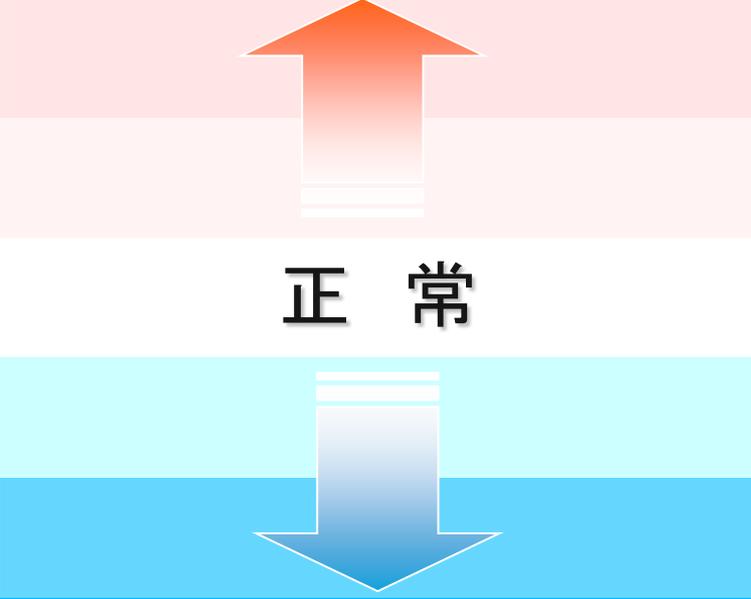
# 血小板凝集功能分析原理

## <微孔過濾器(鎳製)>



直徑1mm的面積內有300個 $20 \times 20 \mu\text{m}$ 大小的微孔

# 血小板凝集功能判定值

等級	狀態	判定	
+3	強度亢進 (黏稠)	危險區域	 <p>血栓症・腦梗塞・心筋梗塞・糖尿病</p> <p>正常</p> <p>難止血・出血性疾病・需注意手術時出血情形</p>
+2	中度亢進 (稍稠)	警告區域	
+1	輕度亢進 (適度)	注意區域	
±0	普通 (適度)	安全區域	
-1	輕度低下 (適度)	注意區域	
-2	中度低下 (稍稀)	警告區域	
-3	強度低下 (過稀)	危險區域	

# 平均值119病例

協力機構: 日本獣醫生命科學大學及日本全國動物醫院

No.	診 斷 名	判定値						
		+3	+2	+1	±0	-1	-2	-3
1	淋巴瘤 14症例		●					
2	腹腔内腫瘍 3症例		●					
3	白血病 5症例		●					
4	甲状腺癌 6症例			●				
5	肝腫瘍 3症例		●					
6	非上皮性悪性腫瘍 3症例		●					
7	肥大細胞瘤 5症例			●				
8	二尖瓣膜閉鎖不全 7症例			●				
9	慢性腎衰竭 6症例		●					
10	肝纖維化 3症例			●				
11	糖尿病 10症例		●					
12	痴呆症 13症例		●					
13	膵腺炎 5症例			●				
14	外耳炎 5症例			●				
15	膀胱炎 5症例		●					
16	心絲蟲 5症例		●					
17	血小板減少症 5症例					●		
18	甲状腺機能低下症 2症例					●		
19	血管内肉瘤 3症例					●		
20	天皰瘡 3症例					●		
21	肝門脈分流 3症例					●		
22	庫興氏症候群 5症例						●	

# 檢討1 血小板凝集能測定平均值 119病例

- **NO.1~NO.7**的淋巴瘤到肥大細胞瘤的腫瘤型疾病的平均值都在「+2」有**亢進傾向**。
- **NO.8**的二尖瓣膜閉鎖不全到**NO.16**的心絲蟲的平均值也為「+2」, 血小板功能有**亢進傾向**。
- **NO.17**的血小板減少症到**NO.22**的庫興氏症候群的平均值「-1」, 可得知血小板功能有**低下傾向**。

結果

連同疾病狀態思考的話可以大概推測兩者間關聯性高

# 検討2 對難治性疾患動物投予PINFENON S

## PINFENON S



投予

難治性疾患動物  
(内科治療無改善)

- 試驗材料

- 試驗藥 ···· **PINFENON S錠140mg**  
(碧容健Pycnogenol和檸檬酸發酵芝麻複合體)使用

- 使用方法

- PINFENON S投予量 ···· ● 體重10kg未満 1回2錠、1日1回  
● 體重10~20kg 1回3~6錠、1日1回
- 試驗期間 ···· 4週
- PINFENON S單獨投与 · 限制不得合併使用其他藥劑或健康保健食品
- 使用前後進行血小板凝集能檢測
- 沒有進行血小板凝集能檢測的病例則觀察QOL和被毛的狀態

- 供試動物

- 以兩處動物醫院於2004年9月到2006年為止來院的19例難治性犬隻為對象

症例犬種	年齡	性別	病名	血小板凝集測定値	有効性	臨床症狀
1 MIX	2	雄	尿石症	+1→+1	△	膀胱炎治不好
2 玩具貴賓	14	雌	MR	+2→±0	○	咳嗽消失
3 馬爾濟斯	9	雌	MR	+2→±0	○	體重恢復↑
4 博美	9	雌	庫興氏	+2→+1	○	異常飲水量減少
5 西施	13	雌	MR	+2→±0	◎	咳嗽消失
6 玩具貴賓	16	雌	DM	+2→±0	◎	精神恢復
7 巴哥	1	雄	異位性	+2→+2	△	出血腫脹不變
8 柴犬	15	雌	異位性	+2→+1強	○	搔癢症狀消失
9 柴犬	17	雄	痴呆	+2→+2	△	試驗後死亡
10 黃金獵犬	11	雌	關節炎疼痛	+2→+1	◎	疼痛消失
11 拉布拉多	10	雌	異位性	+1→±0	○	疼痛消失
12 西施	4	雌	異位性	+2→+2	△	疼痛無變化
13 美國可卡	8	雌	外耳炎	+1→±0	○	糜爛改善
14 迷你臘腸	1	雌	異位性	+1→+1	△	搔癢不變
15 查理士王 小獵犬	9	雄	MR 甲狀腺腫瘤	+2→+1強	◎	
16 迷你臘腸	2	雄	胃炎	+2→±0	○	
17 波士頓梗犬	2	雄	前部葡萄膜炎	+2→±0	◎	
18 吉娃娃	8	雄	膝關節炎	+1→±0	○	
19 柴犬	12	雄	不明原因掉毛	無檢測	◎	發毛

效果顯著=◎、有効=○、無變化=△

# 沒有進行凝集能檢測 1 病例

2005年1月28日 來院 不明原因尾巴尖端、下側面脫毛

軟膏、靈芝無效

2005年3月4日 PINFENON S 投予(4粒/2回/1日)

1個月

90%~100%發毛  
被毛長度 70%恢復



2006年1月26日



2006年4月1日

# 結果

PINFENON S單獨投予  
血小板凝集能檢測  
18病例

無血小板凝集能檢測  
1病例

19病例

效果顯著6例 有效8例 無變化5例 惡化0例

# 綜合評價

有效率 73.6%

效果顯著（6例） + 有效（8例）

全病例（19病例）

× 100 = 有效率

日本獣医内科学アカデミー / 日本獣医臨床病理学会  
2009年大会  
2月13日(金) ~ 2月15日(日)  
主催：日本獣医内科学アカデミー (JCVIM)  
日本獣医臨床病理学会 (JSVCP)  
後援：(社)日本獣医師会 (社)日本獣医学学会  
JCVIM JSVCP0909

# 僧帽弁閉鎖不全犬に対するパンフェノンS (ピクノジェノール含有) の有用性につ いての検討

○吉田直喜<sup>1)</sup>、野矢雅彦<sup>1)</sup>、小山秀一<sup>2)</sup>、大川 博<sup>3)</sup>  
1) ノヤ動物病院、2) 日本獣医生命科学大学獣医内科学教室、3) スケアクロウ



# 針對二尖瓣閉鎖不全犬隻 PINFENON S的有效性

吉田直喜<sup>1)</sup>野矢雅彥<sup>1)</sup>小山秀一<sup>2)</sup>大川 博<sup>3)</sup>

1) 諾亞動物病院、2) 日本獸醫生命科學大學獸醫內科學教室、3) Scarecrow

2009・2・15発表

# 對象病例

NO	性別	年齡	體重	品種	NYHA
NO1	雄(結紮)	10歲	4.64kg	博美	II
NO2	雄	12歲	6.08kg	西施	III
NO3	雌	15歲	4.12kg	西施	II
NO4	雌(結紮)	13歲	3.88kg	博美	III
NO5	雄(結紮)	16歲	8.5kg	MIX	II
NO6	雄(結紮)	13歲	6.5kg	西施	I
NO7	雄	9歲	7.9kg	西施	I
NO8	雄(結紮)	9歲	8.7kg	西施	II
NO9	雄	8歲	4.3kg	馬爾濟斯	III
NO10	雄	9歲	7.1kg	西施	I
NO11	雄	11歲	2.75kg	玩具貴賓	III
NO12	雄	13歲	8.5kg	查理士王 小獵犬	II

# 檢查項目

身體檢查以及**一般臨床症狀**為主

日本獸醫生命科學大學 獸醫內科學教室

由小山秀一等人製作判定表以身體活動能力為判斷基準

**肌鈣蛋白 Troponin**

現在最具特異性的心肌障礙測定指標

效果判定期間

– 為期2個月，間隔1個月檢查

## Troponin值

		投与前	投与後
NO1	博美	<0.01	<0.01
NO2	西施	0.11	0.06
NO3	西施	0.25	0.11
NO4	博美	<0.01	<0.01
NO5	MIX	<0.01	<0.01
NO6	西施	<0.01	<0.01
NO7	西施	<0.01	<0.01
NO8	西施	<0.01	<0.01
NO9	馬爾濟斯	<0.01	0.04
NO10	西施	<0.01	<0.01
NO11	玩具貴賓	0.04	0.01
NO12	查理士王	<0.01	<0.01

## QOL評量(45/差↔0)

投与前	投与後
3	3
13	13
2	2
7	7
7	2
0	0
0	0
9	10
4	2
2	0
36	2
9	0

# 投与前 2008・10・30

# 投与後 2009・01・05

## 身体活動調査票

カルテNo.症例C

2008年 10月 30日

(日本獣医生命科学 獣医内科学教室 小山秀一らの判定表)

I	1	以前より疲れやすくなったが、日常生活に特に支障はない	YES	NO	?
	2	散歩や興奮して遊んでいるとき、呼吸が異常に早くなることもある	YES	NO	?
	3	散歩の途中で休むようになった	YES	NO	?
	4	興奮して遊んだあと少し休むようになった	YES	NO	?
	5	激しい運動をすると咳が出るようになった	YES	NO	?
II	6	少し運動しただけで呼吸が速くなる	YES	NO	?
	7	散歩や遊んでいるとき咳をすることがあった	YES	NO	?
	8	咳の持続時間が5分以内であった	YES	NO	?
	9	家の中で軽い運動や階段を上るだけで疲れるようになった	YES	NO	?
	10	激しい運動をしたとき呼吸困難を起こした	YES	NO	?
III	11	寝ている時間が多くなった	YES	NO	?
	12	軽い運動で咳をすることがある	YES	NO	?
	13	夜間又は早朝特に咳をするようになった	YES	NO	?
	14	咳が始めると10分ぐらい続く	YES	NO	?
	15	散歩や興奮したときふらつくことがあった	YES	NO	?
IV	16	少しでも動くとき呼吸が速くなる	YES	NO	?
	17	昼夜問わず咳をするようになった	YES	NO	?
	18	咳が始めると15分ぐらい続く	YES	NO	?
	19	軽い運動をするだけで呼吸困難を起こすことがある	YES	NO	?
	20	軽い運動をするだけでふらつくことがあった	YES	NO	?
V	21	安静時でも呼吸が速い	YES	NO	?
	22	安静にしていても咳をするようになった	YES	NO	?
	23	食餌やトイレに行くだけで呼吸困難を起こす	YES	NO	?
	24	ほとんど一日中寝ているようになった	YES	NO	?
	25	咳が始まると15分以上続く	YES	NO	?

評価:

1. 活動能力の段階/YESとNOの分布からおおよその活動能力を判定してください

I  II  IV V ...指数①

2. YESと答えたものの合計数 [ 18 ] ...指数②

3. 各段階につきYESまたは、NOと答えられたものの中から3つづつ(NOを優先)をとり、それぞれYES数を記入し(最高3) 次の式によって点数を算出してください

IのYES数 [ 3 ] ×1=[ 3 ]  
 IIのYES数 [ 1 ] ×2=[ 2 ]  
 IIIのYES数 [ 3 ] ×3=[ 9 ]  
 IVのYES数 [ 3 ] ×4=[ 12 ]  
 VのYES数 [ 2 ] ×5=[ 10 ]

**36**

計[ 36 ] ...指数③

## 身体活動調査票

カルテNo.症例C

2009年 1月 5日

(日本獣医生命科学 獣医内科学教室 小山秀一らの判定表)

I	1	以前より疲れやすくなったが、日常生活に特に支障はない	YES	NO	?
	2	散歩や興奮して遊んでいるとき、呼吸が異常に早くなることもある	YES	NO	?
	3	散歩の途中で休むようになった	YES	NO	?
	4	興奮して遊んだあと少し休むようになった	YES	NO	?
	5	激しい運動をすると咳が出るようになった	YES	NO	?
II	6	少し運動しただけで呼吸が速くなる	YES	NO	?
	7	散歩や遊んでいるとき咳をすることがあった	YES	NO	?
	8	咳の持続時間が5分以内であった	YES	NO	?
	9	家の中で軽い運動や階段を上るだけで疲れるようになった	YES	NO	?
	10	激しい運動をしたとき呼吸困難を起こした	YES	NO	?
III	11	寝ている時間が多くなった	YES	NO	?
	12	軽い運動で咳をすることがある	YES	NO	?
	13	夜間又は早朝特に咳をするようになった	YES	NO	?
	14	咳が始めると10分ぐらい続く	YES	NO	?
	15	散歩や興奮したときふらつくことがあった	YES	NO	?
IV	16	少しでも動くとき呼吸が速くなる	YES	NO	?
	17	昼夜問わず咳をするようになった	YES	NO	?
	18	咳が始めると15分ぐらい続く	YES	NO	?
	19	軽い運動をするだけで呼吸困難を起こすことがある	YES	NO	?
	20	軽い運動をするだけでふらつくことがあった	YES	NO	?
V	21	安静時でも呼吸が速い	YES	NO	?
	22	安静にしていても咳をするようになった	YES	NO	?
	23	食餌やトイレに行くだけで呼吸困難を起こす	YES	NO	?
	24	ほとんど一日中寝ているようになった	YES	NO	?
	25	咳が始まると15分以上続く	YES	NO	?

評価:

1. 活動能力の段階/YESとNOの分布からおおよその活動能力を判定してください

I  II  IV V ...指数①

2. YESと答えたものの合計数 [ 8 ] ...指数②

3. 各段階につきYESまたは、NOと答えられたものの中から3つづつ(NOを優先)をとり、それぞれYES数を記入し(最高3) 次の式によって点数を算出してください

IのYES数 [ 2 ] ×1=[ 2 ]  
 IIのYES数 [ 0 ] ×2=[ 0 ]  
 IIIのYES数 [ 0 ] ×3=[ 0 ]  
 IVのYES数 [ 0 ] ×4=[ 0 ]  
 VのYES数 [ 0 ] ×5=[ 0 ]

**2**

計[ 2 ] ...指数③

# 結果

PINFENON S 是可以期待  
改善犬隻二尖瓣膜閉鎖不全引起的  
心衰竭症狀 以及 心肌障礙  
的健康營養保健品

# 針對難治性疾患

## 「藩飛龍PINFRNON S<sup>®</sup>(碧容健含有)」效果

狩野友秀<sup>1)</sup>

松下昌史<sup>2)</sup>

大川 博<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>中居動物病院

<sup>2)</sup>(株)トレードピア

<sup>3)</sup>(株)スケアクロウ

平成25年度 日本小動物獣医学会



# Pycnogenol®

LOOK, FEEL AND LIVE BETTER

# 供試動物及供試材料

## 供試動物

對疑似患有異位性皮膚炎、過敏性疾患，和出現皮膚搔癢症狀等皮膚疾患的犬隻42頭、患有心肌症貓隻2頭、以及自律神經失調症7頭進行投予。

由於貓隻的皮膚疾患以及心肌症僅2例，不列入部份統計

犬年齡：平均 6.8歲 (3~12歲)

貓年齡：平均 9.5歲 (2~21歲)

## 供試試料

「PINFENON S<sup>®</sup>」

(碧容健<sup>®</sup>含有)



體重10kg未滿 2錠  
10~20kg未滿 3~6錠  
SID. BID

# 單獨投予病例



- 吉娃娃 7歲 已結紮
- 已接種疫苗(狂犬病、心絲蟲)
- 主訴  
兩側外耳炎  
口唇、鼻鏡、兩眼周圍發炎  
有搔癢症狀。
- 主食 市販飼料
- 治療

2010年 4月20日

**PINFENON S 1錠B/D**

# 單獨投予病例

## 治療經過



投藥一個月後該犬隻搔癢感消失，但流淚、口唇周圍的炎症未見改善。在持續投予後看得出來臉部的發炎症狀逐漸趨穩。現在前述症狀皆已消失，改為S/D持續投予中。

(照片為2013年7月)

# 合併用藥病例1



- 蝴蝶犬 4歲 已結紮
- 已接種疫苗(狂犬病、心絲蟲)
- 主訴  
    流淚、全身發癢(特別是臉部)
- 主食 市販飼料
- 病史 愛迪生氏病  
    賀爾蒙激素、類固醇服用中
- 治療  
    2013年7月20日

**PINFENON S B/D 30日**

# 合併用藥病例1

## 治療經過



投予10天後發癢症狀趨穩。尚有流淚情形但次數明顯減少。而對於愛迪生氏症症狀的治療上尚未證實有變化。現在持續投予中。

## 單獨投予病例2



- 長毛臘腸 1歲 雌 未結紮
- 已接種疫苗(狂犬病、心絲蟲)
- 主訴  
臉部搔癢、兩耳外耳炎、四肢自  
舔
- 主食 一般飼料
- 治療

2013年 7月16日

**PINFRNON S B/D 30日**

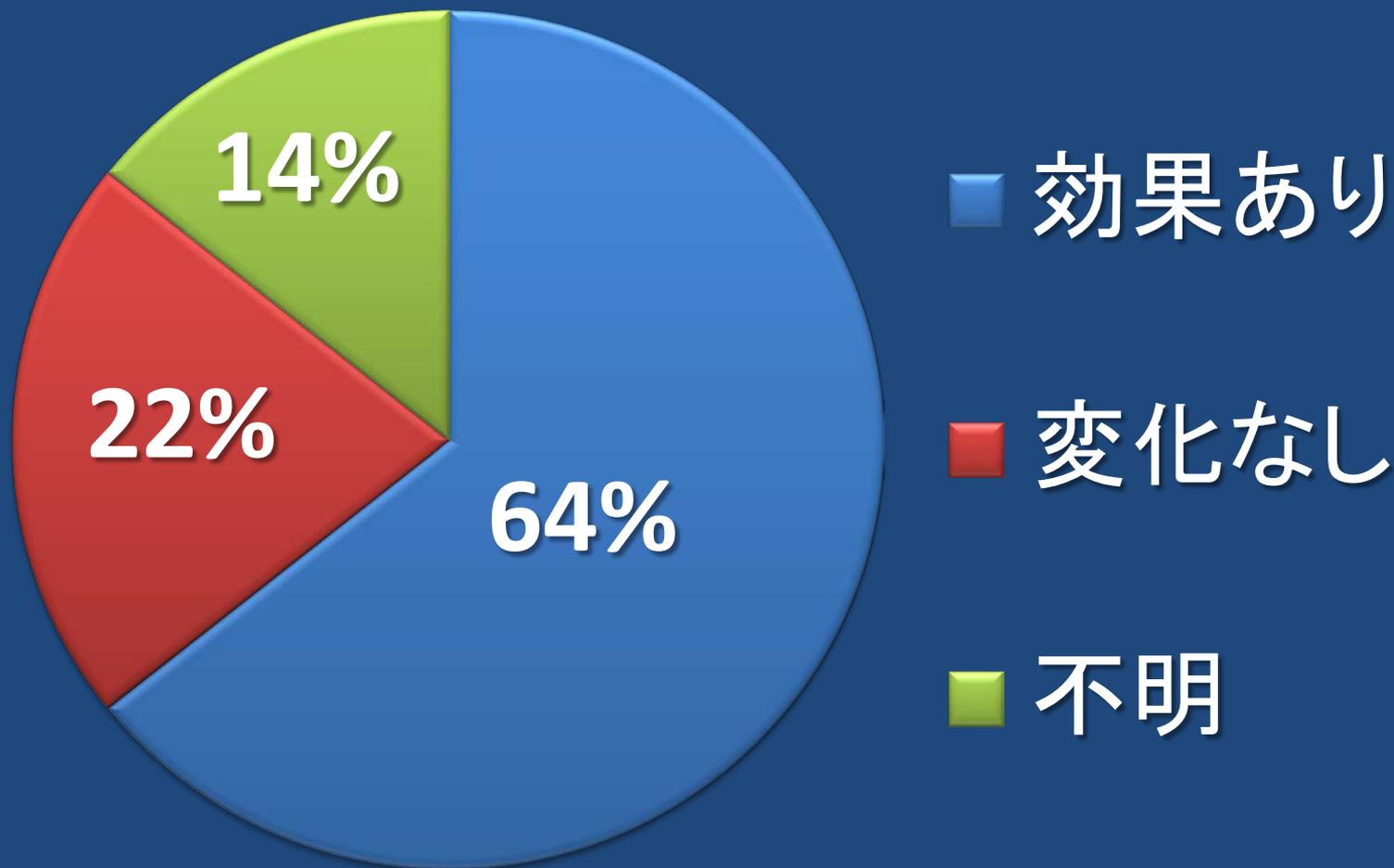
## 單獨投予病例2

### 治療經過

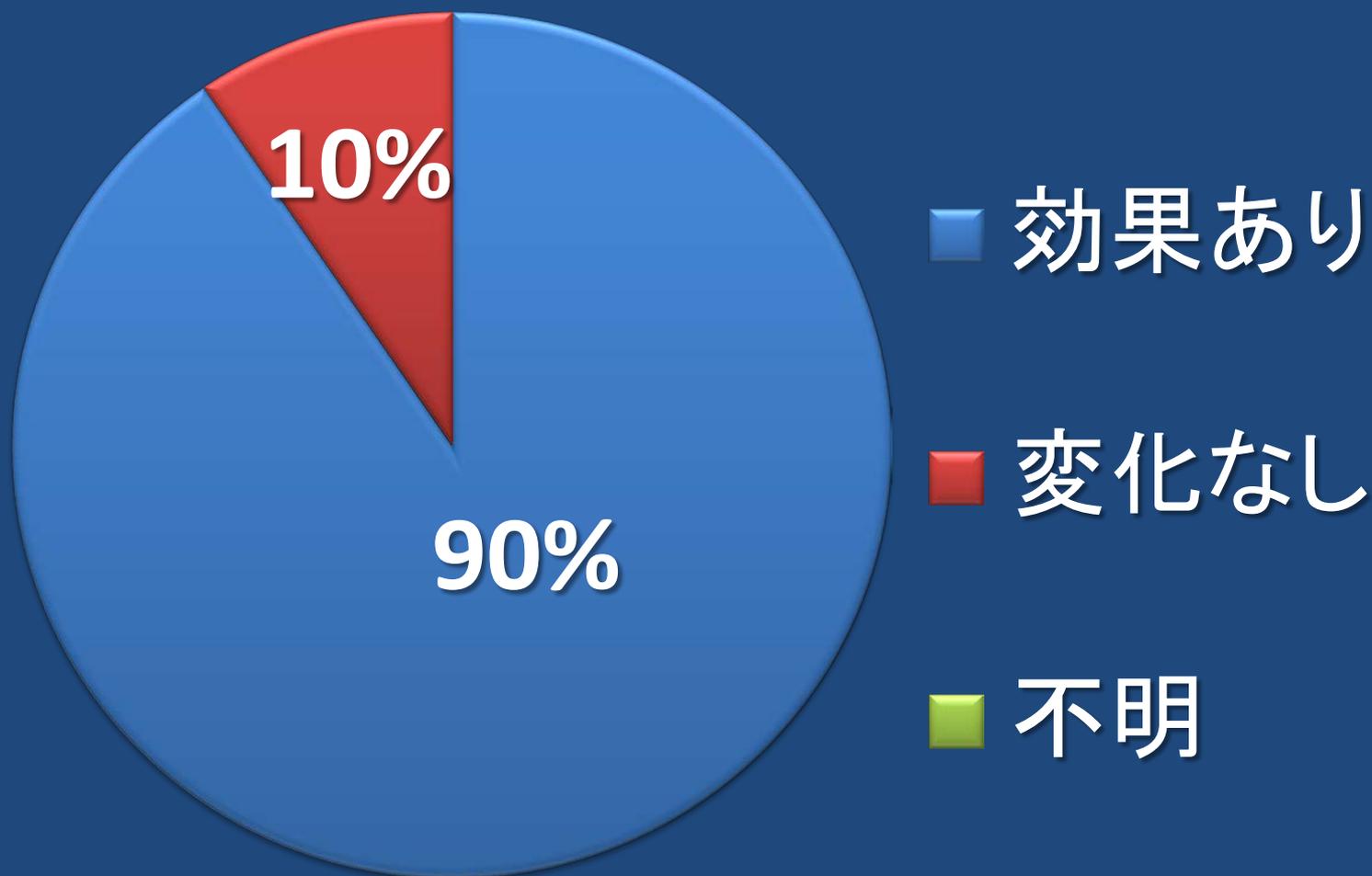


投藥開始1週後搔癢次數減少，外耳炎痊癒。脖子四周尚有發癢的情形。  
持續投予中。

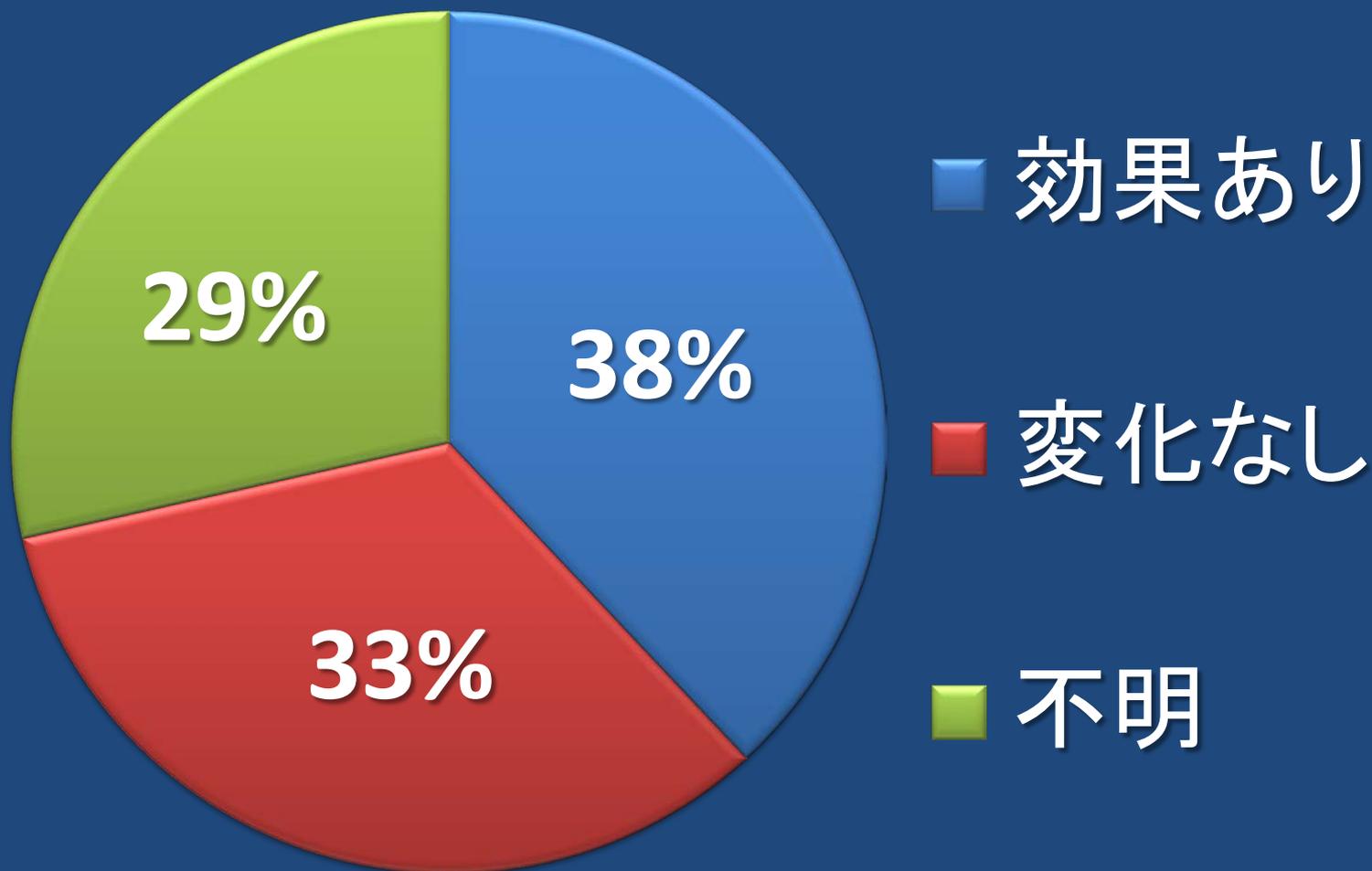
## 皮膚疾患(42病例)



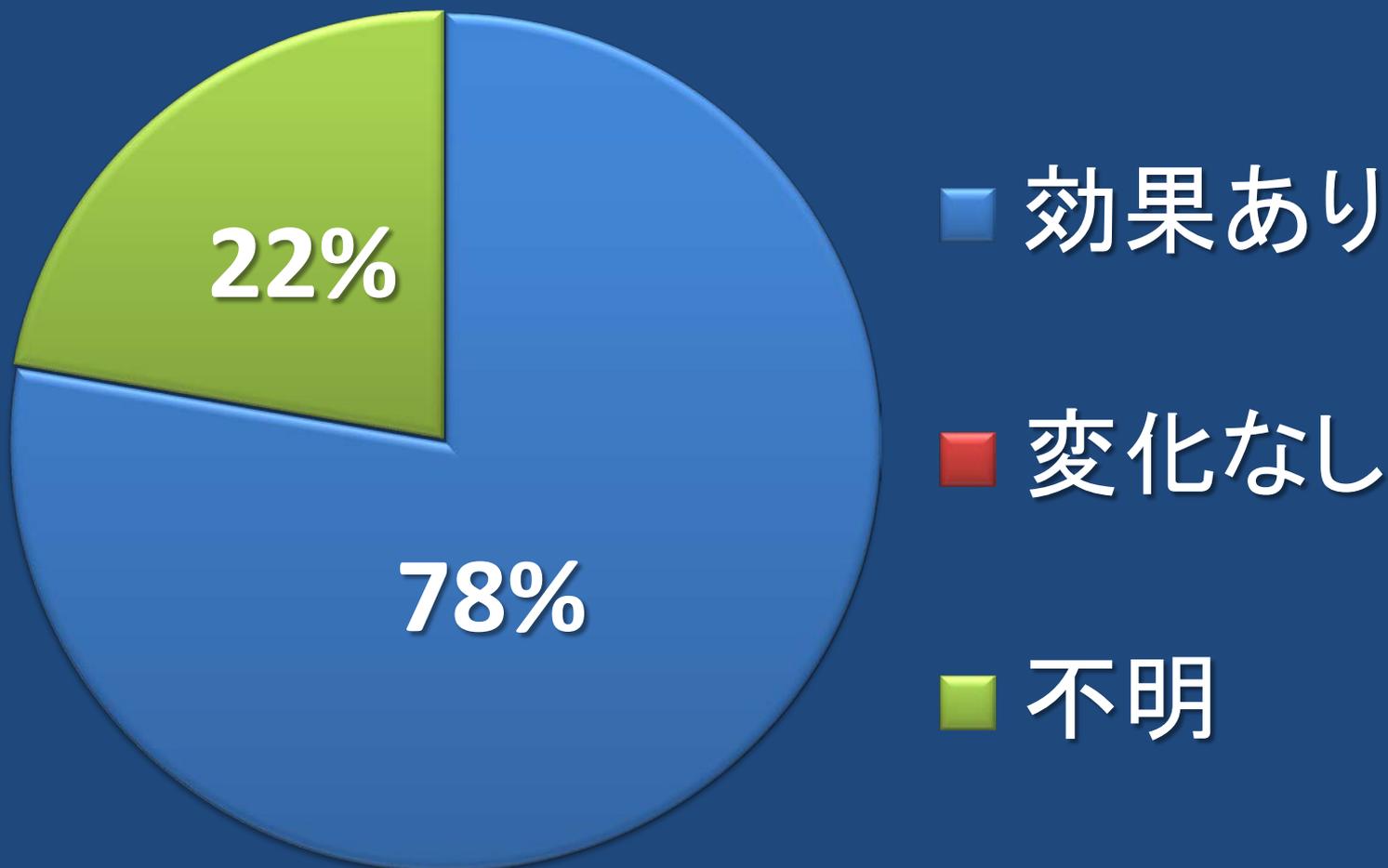
## 単独投与病例(21病例)



## 薬剤併用投与病例(21病例)



# 猫心筋症・自律神経失調症(9病例)



# 結果

初期症狀出現時，在使用藥劑治療前投予調整基礎免疫食品PINFENON S的治療效果較佳。

因此難治性疾患初期建議應以免疫治療為優先。

# SCARECROW 獸醫師專用網站

用藥尚未治癒的狗狗疾病和貓咪疾病、狗狗的健康、狗狗的美容、狗狗的修養教育！「藩飛龍PINFENON及愛寵物IPET」

株式會社 SCARECROW 獸醫師專用網站



▼ 语言选择 ▼



首 頁

藩飛龍PINFENON

愛寵物IPET

學會發表

其他研討會

## 公告

### ■2012年 在第33次動物臨床醫學會年度大會中展出。

使用成團泛菌脂多醣LPS治療過敏性皮膚炎的新途徑 稻川裕之 >>查看論文PDF檔 >>查看各種症狀案例照片

### ■2012年 第4次國際傳統獸醫學會 (韓國首爾)

使用LPS對於治療遺傳性過敏症和過敏症的新途徑方法 >>論文LPS (英文)  
愛寵物IPETS對於荷爾蒙的治療效果 (株) SCARECROW大川博 >>論文ipets (英文)

### ■2012年 在第1次PET VET Asia Expo2012 (泰國曼谷) 中展出。 >>官方網站 >>詳細說明, 請連結此處

### ■2011年 在第32次動物臨床醫學會年度大會中展出。

### ■2011年 日本獸醫內科學ACADEMY學術大會、日本獸醫臨床病理學會、日本獸醫皮膚科學會、3合同學會

「AHCC擔子菌精華的巨噬細胞、對於淋巴細胞活性的研究」 國立香川大學醫學部 西澤孝志

>>查看論文CAP檔 >>CAP (英文)

「愛寵物IPETS在獸醫臨床上的效果之3」 日本獸醫生命科學大學 藤田道郎

>>查看論文PPT檔 >>英文版

### ■2010年 第31次動物臨床醫學會年度大會

「寵物醫療倫理員對於活化寵物醫療界、其必要工作為何」 (株) SCARECROW大川博 >>查看影片

## 媒體資訊



請與我們聯絡

諮詢電話

03-5428-8779

上班時間 10:00 ~ 18:00

〒150-0045

東京都澀谷區

神泉町11-8

信州大橋ビル

THANK YOU  
FOR WATCHING

SCARECROW JAPAN

大川 博